

環境バイオテクノロジー学会2016年度大会／年会シンポジウム「培養・検出技術の進歩と環境バイオテクノロジー」のご案内

平成28年6月13日（月）～14日（火）に下記の通りにサテライトキャンパスひろしま（広島県民文化センター内）にて、2016年度大会およびシンポジウムを開催いたします。このたび、学会ホームページ（<http://www.jseb.jp/>）に詳細な案内を掲載し、参加申し込み受付を開始いたしましたので、お知らせいたします。

発表申し込み締め切りは5月16日（月）を、参加登録締め切りは5月30日（月）を予定しております。奮って、ご参加、ご発表をお願いいたします（申し込み方法はホームページをご覧ください）。また、研究室員など周囲の方にも参加をおすすめいただければと思います。

なお、発表申し込み・参加申し込みに際しましては、懇親会参加の有無を忘れずにお知らせください。また、非会員、学生の方の参加の場合は、その旨を明記していただくようお願いいたします。

皆様の参加を心よりお待ちしております。

2016年度大会実行委員長

加藤純一（広島大学大学院先端物質科学研究科）

- 日 時：** 平成28年6月13日（月）～ 14日（火）
会 場： サテライトキャンパスひろしま（広島県民文化センター5・6階）
広島市中区大手町1丁目5-3
(<https://www.pu-hiroshima.ac.jp/site/satellite/>)
参加費： 正会員5,000円，学生会員1,000円
非会員10,000円（ただし学生は2,000円）

スケジュール（予定）

1日目【13日（月）】

- 13:00～17:50 一般講演会，ポスター発表 など
18:00～20:00 懇親会

2日目【14日（火）】

- 9:00～12:15 特別講演、年会シンポジウム「培養・検出技術の進歩と環境バイオテクノロジー」
13:30～15:55 一般講演会，受賞講演 など
16:00～17:00 総会

特別講演、シンポジウムの講演者と内容(仮題)：

- | | |
|----------------|---|
| 松村 幸彦（広島大学） | （特別講演）バイオマス利用技術の現状 |
| 杉本 真也（慈恵医大） | 蛍光プローブチオフラビンTによる分子レベル・細胞レベルのRNA代謝の高感度モニター |
| 蓮沼 誠久（神戸大学） | 代謝プロファイリング法の紹介と微生物育種技術への応用 |
| 星野 辰彦（JAMSTEC） | 海底下微生物圏の解明を目指した技術開発 |
| 青井 議輝（広島大学） | 難培養微生物の培養技術 |

参加登録：

参加希望の方は（１）大会への参加 （２）懇親会へ参加の有無（３）氏名 （４）所属 （５）連絡先を明記し、E-mailまたはFAXにて下記連絡先に5月30日（月）までにお申し込み下さい。参加費は当日受付にて申し受けます。当日の参加も可能ですが、なるべく事前登録をお願いします。

発表（一般講演会・ポスター）募集（本学会会員）：

発表を希望される方は、参加登録と共に下記要領にて5月16日（月）までに講演要旨を作成してE-mail（MS-WORDの添付ファイルまたはテキスト）にて大会事務局までお送り下さい。一般講演の希望の有無、ポスター発表の希望の有無、優先希望順も、合わせてお知らせ下さい。

講演要旨作成要領：

（１） 10.5ポイントの文字を使い幅15cm、高さ10cmの枠内に収める。図表は不可。

（２） 書式：演題／改行／発表者（演者に下線）、所属（省略形で記し括弧内に入れる）／改行／本文（目的・方法・結果・考察・引用文献等を任意の形式で記述）

下記の要旨（例）を参考にしてください。また、体裁は実行委員会で変更する可能性があることをご確認ください。

~~~~~

要旨（例）

青枯病菌 *Ralstonia solanacearum* の走化性機構解析とその応用

緋田安希子、奥正太、Mattana Tunchai、田島誉久、加藤純一（広島大院・先端物質）

【目的】青枯病菌 *R. solanacearum* は土壌伝染性の植物病原菌であり、世界中で深刻な農業被害をもたらしている。そのため、有効な感染防除法の開発が急務とされている。*R. solanacearum* は運動性を有しており、走化性を利用し植物に感染するとされている。しかし、その詳細な機構はほとんど解析されておらず、不明な点が多い。*R. solanacearum* の走化性機構を知ることで、農薬に偏重しない新たな感染防除技術の提案が可能になるかもしれない。そこで本研究では、*R. solanacearum* の走化性について詳細な解析を行った。

【結果】野生株を用いた走化性測定により、*R. solanacearum* は、アミノ酸、有機酸、ホウ酸に強い走化性誘引応答を示し、アルコール類に対して走化性忌避応答を示すことが明らかとなった。そこで、これら走化性物質を感知する走化性センサータンパク質（MCP）の特定を試みた。ゲノム情報より、*R. solanacearum* は22種類のMCPを保有すると予測された。MCP遺伝子変異株を用いることで、アミノ酸、有機酸（L-リンゴ酸、D-リンゴ酸、クエン酸、コハク酸、フマル酸）、ホウ酸を感知するMCPの特定に成功した。さらに、これらの特定したMCP（ホウ酸MCPを除く）がトマト根滲出液に対する走化性にも関与することも明らかとなった。現在、これらの知見を応用した根滲出液走化性の阻害法を検討している。

~~~~~

発表形式：

一般講演：発表時間10～15分間を予定。パワーポイントの使用をお願いします。

ポスター作成要領：縦120cm、横85cmの枠内で、左上角を10cm四方あける。

最上部に題目、発表者、所属を明示する。レイアウトは自由。

参加・発表申込み／問い合わせ連絡先：

〒739-8530 広島県東広島市鏡山1-3-1 広島大学大学院先端物質科学研究科内 環境バイオテクノロジー学会2016年度大会事務局

(担当・田島誉久 Tel: 082-424-7871 Fax 082-424-7047 / E-mail: ttajima@hiroshima-u.ac.jp)